

玉川今昔物語

不思議なもので、毎日歩いている道で空地を見つけると、そこに何があったかなかなか思い出せないことってありませんか？そしてそこに新しい建物でも建ってしまうと以前そこに何があったかだんだんと記憶が薄れていってしまい、ちょっと寂しい気持ちになったりして……。今回はチョット昔にタイムスリップして忘れてはいけない昔の玉川をお届けします。2007年に用賀で開催された「たま・玉・用賀さくら祭り」の時に展示した写真を中心に懐かしの風景をどうぞ。



世田谷区立郷土資料館に整備途中の環状8号線の写真がありました。上用賀付近としか書いてなかったのですが現在のどの辺りにあたるかわかりませんが、何となくこの辺かな？というところで写真を撮ってみました。逆方向かもしれませんが、お許しを。とにかく高い建物がひとつもないのに驚かされます。素晴らしい見通し、素晴らしい空の広さに感激。



左は昭和28年、砂利を運ぶ貨物車、玉電用賀駅付近です。右の写真が同じアングルで撮影したもの。チョットアンビリーバボーですよ。人間は便利さを手に入れた代わりに豊かさを手放してしまったような気がするなんて言ったら大げさですか？



黒沢竜様提供



昭和30年代、用賀中町通り「なおい小鳥店」さん前です。奥に見える一番右、よしずがあるのが現在の「梅寿司」さん。なんか、現在より道幅が広いような気がしますが、いかがでしょうか？たった50年で街がこんなに変貌してしまうなら今から50年後は一体どうなってしまうのでしょうか？

上の写真は、今まさに用賀駅到着するところの玉電。この踏切は現在でいうと喫茶店「珈琲譚」のところの十字路でしょうか？滝本医院さんは昔はもっと十字路寄りであったのでしょうか？玉電は国道246号線を駒沢をすぎてから右斜め桜新町の旧道へ入り、用賀を通り、瀬田の交差点を越したら派出所の左手を通り、田園都市線の地上部分を通して二子に向かいました。



用賀中町通の馬事公苑駐在所の昔の写真が世田谷区郷土資料館にありました。現在はモダンな建物になっており、馬の馬蹄に見立てた入口でお馴染みです。そしてここは現在も駐在所です。昔の写真で駐在所裏の右手に洗濯物が干してあるのが微笑ましい感じがします。

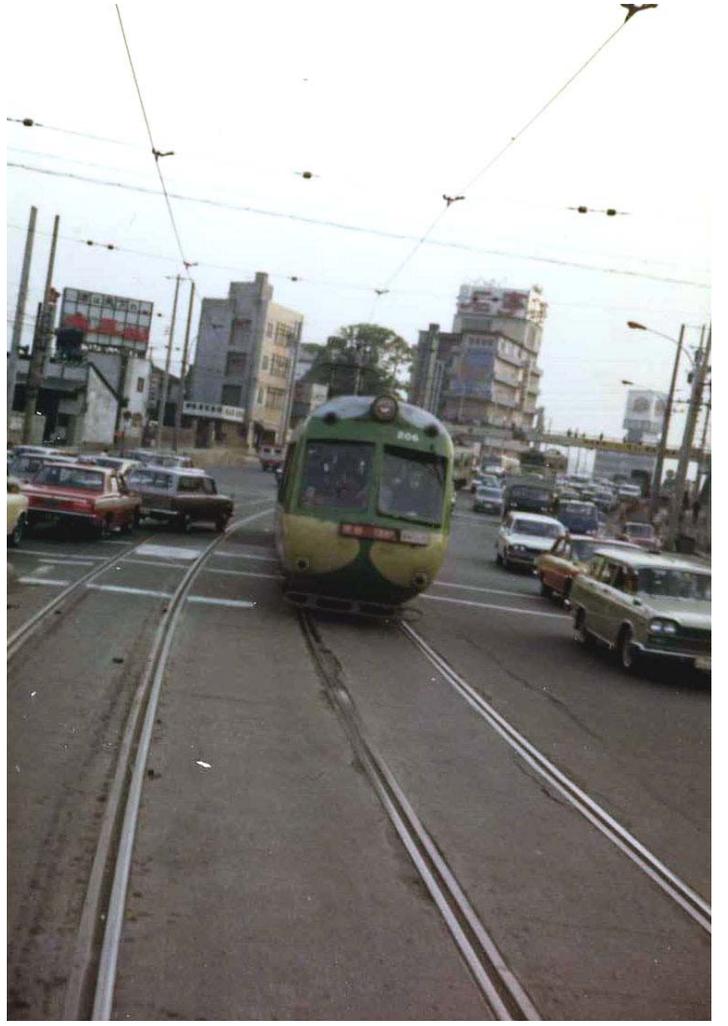
* いろはに刀サッチ#23「む」* ～無理が通れば道理が引っ込む～



「む」は、江戸では「無理が通れば道理が引っ込む」で、道理に外れた事が幅をきかすようになると、正しい事が行われなくなる、という意味。大阪では「無芸大食」で、特技や取り柄がないにもかかわらず、食べることだけは人並みであること。京都では「昔操った杵柄」で、昔習いおぼえた技能。またその腕前が長い年月経ても衰えないで発揮できる、という意味。オジサンギャグで「昔取った篠塚」というのがありますが、えっ！知らない？知らない方がいいかも知れません。これからの時代。そう思います。



世田谷区立郷土資料館所蔵の完成直後の「東名高速」入口付近。首都高が無い。高いマンションも無い。現在の空撮はできないので、地図やグーグルアースで見比べていただくとビックリします。購読者の方の御宅も写っているのでは？道路は変わっていないので是非探してみてください。しかし、見渡す限り畑が続いていますね。現在もその名残を見て取ることができ、無人の野菜直売所があちらこちらにあります。ここから高度成長が始まるわけですが、現在と比較すると改めて日本のパワーの凄さを感じ取ることができます。



左は玉電時代の「二子玉川園」駅。右手奥の森は上野毛方面とのことです。上の写真は瀬田の交差点を過ぎ、二子玉川に向かって走る玉電とのことです。どちらの車両も「イモ虫」や「ペコちゃん」などの愛称で人気のあった「玉電 200形」。玉電は1907年に渋谷～玉川間が開通し、1924年に砧線が、1925年に下高井戸線（現世田谷線）が開通し、みなさんの足として大活躍しました。その後、玉川線と砧線は1969年5月10日を最後に廃止となってしまい、交通手段はバスに頼らざるを得ない時代となりました。非常に不便な思いをしました。「新玉川線（現田園都市線）」が開通した時の嬉しさは今でも覚えています。そして時代はまたまた変わり、二子玉川からは遊園地を始め様々なものがなくなりました。写真下左は二子玉川の懐かしの「ふく家」さんです。その交差点のそばにあった立派な「蔵」もなくなってしまいました。でも人情だけはなくなっていないのが救いです。



それ行け!! アサッチ



世田谷区立郷土資料館に懐かしい木造校舎の写真がありました。全国みな同じ作りだと思うので卒業生でなくても校舎の面影に懐かしさを感じるのではないかと思います。